

私のリーダー論

女性初が語られない社会に



日本製薬工業協会会長
宮柱 明日香氏

リーダーの手引き 稲盛氏の哲学から気力

リーダーを目指すうえで大切なのは、自分の可能性を信じて機会が訪れたときに「やってみよう」と臆せず手を挙げる事です。挑戦の中で学び、必要なら軌道修正すればいい。その積み重ねが力になっていきます。

お薦めの本は京セラ創業者・稲盛和夫氏の著作で、すべて読みました。特に「成功への情熱」が好きです。キャリアの転換点や仕事で行き詰ま

っているときに繰り返し読み返しています。仕事への「情熱」や「誠実さ」、「創意工夫」「決してあきらめない」などの章に分かれ、稲盛氏の哲学が盛り込まれています。残念ながら稲盛氏とお会いすることはできませんでしたが、自身が置かれている状況にあった章をめぐっては、稲盛氏の言葉から勇気や気力をもらって、自らを鼓舞しています。

「女性リーダーを増やすのに重要なことは、それぞれの会社や組織で置かれたフェーズは違うとは思いますが、やはりいまのリーダーたちが、メンバーの多様性が生み出す可能性を信じ、そういう組織づくりをし

ていくことがまずは大事だと思えます。あとは女性たち自身の行動ですね。私の経験上、実体験は本当に大事です。リーダーシップは経験によって磨かれていくものだと思うので、機会が巡ってきたときは『ぜひ遠慮しないで』と言いたいです」

「女性の部下を持つ上司が遠慮しがちなことは問題かなと思っています。もちろん、ライフステージや価値観への配慮は必要です。仕事を続けられる環境づくりや本人、家族の気持ちも重要です。ただ、おもんばかった結果として、部下が機会を失うことは避けるべきです。私は、海外で『女性だから』『異国だから』と遠慮せず、挑戦の機会を与えてくれた上司に出会いました。その経験がリーダーシップの礎になっています」

(黒瀬泰斗)

武田薬品工業の宮柱明日香氏(45)は女性初の日本製薬工業協会(製薬協)会長だ。ただ、宮柱氏は「女性初に意味を持たせない。こうしたキーワードが付かない世界をつくらなければいけない」と強調する。インドネシアなど海外での勤務を通じて、多様性こそが組織を強くすると実感したからだ。

「なぜ製薬業界への就職を志したのですか。」「当時は就職氷河期で就職活動は厳しかったんです。武田薬品に決めたのは、自分の強みである人と話をするような仕事がしたいと思ったに加え、祖母をがんで亡くしたのも背景にありました。医薬情報担当者(MR)職から社会

「インドネシアの次に日本に帰らず、ベトナムに赴任しました。カントリー・マネジャーの役職で、事業規模は小さいながらも国全体を見ることになりました。当時は、武田薬品がアイルランド製薬大手のシャイアーを買収した直後というタイミングでした。私に課せられたのは、両社の

「東南アジア勤務の経験からはどのようなことが得られましたか。」「武田薬品の抗がん剤や希少疾患の薬を必要としている

「打診された時は日本で神経精神疾患事業部長をしており、想定外の出来事でした。大規模な組織再編が待ち受けている(ため難しい)かじ取りが必要になる(ことも理解していましたが)『挑戦できる環境に身を置きたい。やるなら自分がやる』と自然と覚悟が決まりました」



東南アジアで「決める力」を鍛えられた(左端が本人、2019年にインドネシアで同僚と)

「結果としていわゆる『決める力』を鍛えられたと思えます。いまの時代、安定した事業環境というのは先進国を含めどこにもないと思うんです。常に環境変化が起きていくなかで挑戦していく、そういうところに行きたいと思うようになりました。私は根っから好奇心が強いんですよ。なので、全く知らないような国にあえて飛び出したんだと思います。海外赴任に限らずキャリアの転換点ではそうした基準で道を選ぶことが多かったかなと思います」

配慮は必要、遠慮は不要

「女性ならではの苦労もありますか。」「日本では性別による偏見が根強く残っていると思えます。女性初といわれる立場になったとき、当然、世間の目や評価は気になります。でも

私はそれらの声は気にしないと決めていました。批判もサポートもあるなかで、そしゃく前に進むのがリーダーの宿命だと思っています」

「女性初という言葉がなくなる社会に日本はなっていないと思っています。『オフィスレディー』とか『女性参政権』などの言葉は今も使われないじゃないですか。製薬協会

ベトナム事業を統合し『ワン武田ベトナム』として事業をさらに展開するというものでした」

「東南アジア勤務の経験からはどのようなことが得られましたか。」「武田薬品の抗がん剤や希少疾患の薬を必要としている

「打診された時は日本で神経精神疾患事業部長をしており、想定外の出来事でした。大規模な組織再編が待ち受けている(ため難しい)かじ取りが必要になる(ことも理解していましたが)『挑戦できる環境に身を置きたい。やるなら自分がやる』と自然と覚悟が決まりました」